

# 「朝NIE」で育む「読む力」と「社会につながる力」

伊丹市立笹原中学校 校長 岡本 光子  
主幹教諭 山中 眞紀

## 1. はじめに

本校では、毎朝、朝読書の時間を設け、読書の習慣化や文章を読み取る力、語彙力の獲得を図ってきた。しかし、自分の考えや思いをまとめたり、書いたりする力が弱く、読書と平行して活字にふれながら、「書く」力を育む機会を設定することにした。平成24年10月から、全校で新聞記事を活用した読解ワークに取り組み、1、2年生では週1回の朝読書の時間を「朝NIE」として、3年生では週末課題として実施した。読解力や表現力はもちろん、社会の出来事に興味を持ち、社会とのつながりに気づくとともに、「知る」ことから始まる「学びの豊かさ」を実感してほしいと考えて、日々取り組んでいる。以下に、2年生の取り組みを中心に述べる。

## 2. 取り組み

### (1) 朝NIEについて

- ① 週1コマの朝読書の時間（月～金8：30～40）を「朝NIE」にする。  
（1年木曜日、2年金曜日、3年週末課題）
- ② ワークシートは全校統一ではなく、生徒の実態に応じて、学年で作成、選択して使用する。
- ③ ワークシートは回収し、担任が点検の上、コメントを記入して生徒に返却する。生徒は各自の「朝NIE」ファイルにとじる。
- ④ 読み取りが良くできたワークシートや視点のおもしろい読み方をしたものは、学年のフロアに掲示して、生徒が自由に見られるようにする。掲示のボードには、記事内容を補足できるような写真や言葉を添えて、理解が深まるように工夫する。必ず、次週の週明けには掲示する。
- ⑤ 各階の廊下や図書館前に新聞を自由に閲覧できるコーナーを設置し、新聞への興味・関心を高める。
- ⑥ ワークシートの記事は、指導者が意図的に記事を選択して、記事の内容を読解させ、記事をもとに考えさせる。タイムリーな話題、地方紙ならではの話題、日常生活に関する話題、4コマ漫画など、新聞への興味・関心も高められるようにさまざまなジャンルの記事を選択する。

記事は、朝日・毎日・産経・読売・神戸・日本経済新聞、さらには、各地

方紙も活用する。

- ⑦ 奄美大島に帰省した生徒が持参した「奄美新聞」がきっかけとなり、全国の「新聞タイトル」を集める取り組みを始めた。



生徒や職員、保護者や関係機関の方々が出張や帰省などの際に持ち帰り、提供して下さる、たくさんの方々の協力により、47都道府県のうち、22都道府県分が集まった。段ボールで作った日本地図に、新聞名を貼り付け掲示している。文字の形や背景のイラストにも、地域の特徴が表れ、地理の学習にもつながると好評である。海外の新聞への興味関心も高まり、現在、外国の新聞も掲示している。



日本列島に貼られた新聞タイトルの数々



ドイツで購入した新聞

## (2) 国語の授業での取り組み例

### 【広告の読み取り】…1年1学期

- ① 新聞の全面広告を利用し、比較分析する。以前に車の広告（同一会社）を分析した経験を生かし、住宅の広告が増えてきたこともあり、4つの住宅会社の商品を比較分析した。
- ② 画面とキャッチコピーを併せて考えることで、「見る力」「思考力」を育成できる取り組みである。
- ③ 震災以後、住宅に求めるものとして「エネルギー確保」「強い家」「家族の安全」などが前面に出てきていることを広告から読み取らせた。
- ④ 広告の写真として、宮城県の震災後の住宅や松島の風景が使われており、伝えたいメッセージや広告の意図をはっきりとつかませることができた。

### 【ニュースウォッチング】…1年3学期

- ① 新聞記事から、興味・関心を持った記事を選ぶ。記事を読み込む中で、分からない言葉や漢字の読みなどを辞書などを使い調べる。また、内容を要約する。
- ② 学級の生徒3人と家族や知り合いなど大人2人に、自分が選んだ記事の内容と関心を持った理由などを説明し、他の人の意見を聞き、ワークシートに記録する。最後に、記事から感じられる現代的課題をワークシートにまとめる。
- ③ 学級の生活班でワークシートをもとにグループワークを行い、各班の代表者の発表内容を評価し合い、情報を共有するとともに考えを深め合う。

- ④ 学習の成果が顕著なワークシートや話題性の高い内容、問題提起となる内容を取り上げたワークシートなどを学年フロアに掲示し、情報の共有化を図った。
- ⑤ この学習をもとにして、夏休みの自由課題として「いっしょに読もう!新聞コンクール」に数人が応募した。

【コミュニケーションを考える】…2年2学期（10月末）

- ① 「新聞記事から考えるコミュニケーションの姿」をテーマに、教科書の説明文と2つの新聞記事を用い、現代の若者たちのコミュニケーションの特徴や課題を考える授業を行った。
- ② 新聞記事は「高知大生がゆるキャラの着ぐるみを着て、町の人たちとふれあう」（2013年5月18日付朝日新聞夕刊）という内容のものと、「京都大学の学食のぼっち席が好評」（2013年7月27日付朝日新聞夕刊）を取り上げた。両方とも、大学生に関する記事であり、共通点を見つけやすく、コミュニケーションについて考えるよい参考資料となった。
- ④ 学習を通して、現代の若者は、視線を避ける傾向やSNSなどの機器により直接相手と向きあわない傾向がある一方、つながりを求めすぎ、孤立を恐れることなどが、浮き彫りになった。
- ④ 授業で分かった事柄や新聞記事から見てきた事実をもとに、400字の意見文を根拠や具体例を挙げて書くことができた。
- ⑤ コミュニケーションやSNSについての記事は、新聞等にたくさん掲載されているので、生徒が自主的に資料を集めやすく、考え方や視点を広げることに役だった。



協同学習の様子

【その他】…2年1学期

- ① 「コラム」について重点的に学習した。「天声人語」を使って、引用の意味などコラムの構成などをおさえた。「天声人語」以外のコラムについて、6社の新聞を使い確認した。この学習の後、「天声人語」の書き写しを始め、一冊完成させた生徒が出てきた。
- ② 朝日新聞の「be ランキング」の「気持ちが悪い日本語」と北原保雄著「問題な日本語」を使って「レストランでの言葉遣い」を「気持ちがいい日本語」に直す学習を行った。おかしい言い方が生まれる原因も考えることができた。

### 3. 成果と課題

2年生は、平成24年10月から「朝NIE」を始めた。生徒は毎週金曜日には「朝NIE」に一生懸命取り組み、意識も高まってきた。平成25年11月の生徒アンケートの結果、「朝NIE」に取り組んで、「記事を読む」「記事の内容を理解する」「文章を書く」「自分の考えをまとめたり表現したりする」等の力がついたと思いませんかーという設問に、93.9%の生徒が「はい」と回答している。「朝NIE」の掲示物は学年フロアの廊下に、2年の2学期までで36の掲示ボードを展示している（写真参照）。掲示物についての意見や感想は次の通りである。

- ・ 友達の意見や考えを見て、いろんな考えを持っていてすごいと思う。また、みんな真剣にしていねいに考えていると思う。
- ・ 自分が気がつかないことを、友達の文章から知ることができるので、ためになる。



新聞を活用した授業については、

- ・ 教科書だけよりは、楽しんで勉強できる。新聞の記事を比較したり、共通点を見つけたりする勉強はおもしろい。集中力が増す。
- ・ 授業で新聞記事を取り上げて勉強すると、わかりやすい。その後に、記事を見ると、すぐに「朝NIE」みたいに解きたくなる。

生徒は概ね「NIE」に関心を持って、意欲的に取り組んでいる。「分かる楽しさ」を実感し、「社会につながる力」「豊かな心」を育てたいと「NIE」に取り組んでいるが、漢字の読み方なども含めて、ていねいに指導することで「学ぶ」「知る」喜びを感じてほしいと考えている。また、興味・関心を持ちやすい、身近で自分たちの生活と関わりのある記事を選んできたつもりではあるが、「朝NIE」の時間内に記事の読み取りができない生徒には、設問への解答を1つでも2つでもきちんと書いて達成感が持てるように、きめ細やかに指導をしていきたい。記事の内容に関しては、政治や国際問題はほとんど取り上げられなかったが、次年度は、適切な記事を選んで、社会問題にも挑戦したい。